

第4回行文線未整備区間の整備再開に向けた村民説明会 議事録

日時 令和3年7月8日（木）午後7時から

場所 地域福祉センター1階多目的ホール

事務局 副村長

村役場総務課長

支庁土木課長

支庁土木課道路河川担当

参加者 13名

開会、開会挨拶、説明、閉会挨拶

○以上の項目は、「21.07.08 行文線未整備区間の整備再開に向けた村民説明会（昼の部）」議事録と同様のため、省略

質疑応答

○司会 以上で説明は終了ということですので、これから質疑応答のほうに入ってまいりたいと思います。質問される方は、挙手をしていただければ、マイクをお持ちさせていただきますので、忌憚ない御意見を頂きたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。御質問、いかがでしょうか。

○参加者 スケジュールに関して、おおむね何年後とかを教えてほしい。

○土木課長 全体スケジュールにつきましては、工事期間の8年間というものを想定していきまして、具体的な着手の年度については、まだ用地買収に着手しておりませんので何とも言えない状況です。

○司会 いかがでしょうか。

○副村長 用地買収について、国有林がメインなのですかという質問がありました。

○土木課長 大体1年から2年ぐらいを想定しています。それから、今年度用地測量、それから設計していきますので、2年ほど用地取得にかかる考えると、大体令和5年、6

年以降なのかなというところでは。

○参加者 工事が始まってから気になるのは、奥村側から施工ということなのですが、工事車両の出入りのことが心配です。道が狭いし、そのころ、分譲地への住宅の建設が始まっていくと思うのですが、そうするとその建設なんかもあるだろうし、錯綜するのではないかと。

○土木課長 そうですね。先ほどの第1回目で御提起頂きまして、奥村側から施工するとすると、ここの夜明道路を走行するということになるので、それについてはちゃんと配慮してもらいたいという話がありました。先ほどの説明にもあったとおり、トンネルを造る際は、まずこのオレンジですね、ヤード等を造りまして、そこを活用しながら整備、またトンネルの一時的な土砂を置くような想定をしています。ただ、これで足りるかどうかというのは詳細な検討を進めているところです。

いずれにしても、工事車両の走行については、当然通学路を使う小学生の皆さんとか地域の方々に配慮しながら、施工計画を練っていくことになります。

○参加者 施工時に津波避難でも使う道になるので、早くしなくてはいけないのだろうなと思います。

○道路河川担当 工事車両の補足、御説明させていただきます。

工事車両が最大となる工事については、トンネルの掘削時になるかと思いますが。先ほどの夜明道路、整備工場から夜明道路、整備工場付近を走行するダンプトラックの1日当たりの最大台数が、およそ30台～40台程度を見込んでおります。この辺は今後具体的な施工計画を取りまとめていく中で、もう少し具体的なことがはっきりすると思います。

○司会 ほか、いかがでしょうか。

○参加者 3つあるのですが、1つは、工期が8年ということで、ぱっと見た印象では、すごい長くかかるなという印象だったので、大体それぐらいやはり通常の工事でもかかってしまうものなのか。

○土木課長 橋梁それからトンネル2本、また鋼製栈道を予定しているわけですが、1か所当たりにかかる期間というものが大体約1年以上かかると想定しています。橋梁ですと大体2年ほど。またトンネルについては丸1年。鋼製栈道につきましては、片側から尺取り虫のように施工してまいりますので、これだけでも大体3年近くはかかるのではないかと。

ただ、工期短縮につきましては、より技術的にできないか検討してまいりますので、今

回は防災道路ですから、それについてはより工夫していきたいと思います。

○参加者 同時に進めていくというのは難しいのですか。

○道路河川担当 今の御質問に対してお答えいたします。

まず同時に進めていくことが困難な状況としては、施工ヤード、奥村側のほうには確保できるのですが、村道釣浜線のほうについてはそのような施工に必要なヤードの場所が確保できない。それと都住が近接しているため、そちらからの工事車両の搬入については、いろいろ住環境の問題がありますので控えさせていただいております。

それとトンネルの工事を行ったときの話なのですが、トンネルを掘ると湧水が出てくるということで、より低いところから上に高いほうに向かって掘り進めるということで、排水をしっかりと確保しながら工事を進めていくというのが、一般的なやり方となっております。ということで、地形の低い奥村側からトンネルの掘削の工事を進めていく必要性がございます。

○司会 もう一つ。

○参加者 あとは、昼間の説明会では、どんな質問が出たのでしょうか。

○土木課長 昼間の説明会では、まずお話し頂いたのは、1つ目は防災道路ということもあって、8年もかけてよいのかということ。これに対しましては、これは環境に配慮しながら、保全しながらということ、また、用地買収もあるので、最善を尽くしますという話をさせていただきました。

また、これまでの経緯、環境面への配慮というので、どこまで検討されているのか。具体的に言いますと、奥村川にかける橋梁について、風の影響を考えると、それから道路排水に関してです。この辺については、当然トンネルの中には排水は入って、雨水については入ってこないのですが、こういう橋梁につきましては、この部分に雨が降りますので、この排水についてはどうするのですかという質問がございました。それにつきましては、一般的に道路排水につきましては排水量がどれぐらいなのかを計算しますのと、併せて奥村川なのか、それとも別の場所なのかというのを調整しないとイケませんので、それについては現在検討中というふうに回答しております。

あとは、先ほどありました夜明道路をダンプトラックが通る場合に、ここにお墓がありまして観光名所になっているので、ここの渋滞対策ですとか交通処理はどうするのかという話がございました。引き続き村、警察と連携しながら検討してまいりますという話をしております。

一方で、防災面での話で、今度はここに道路ができますが、この手前は、都住がある交差点から入るわけなのですが、ここの交差点についてはどういう渋滞を想定しているのかと。天災が起きた際にみんな車を利用して逃げるのではないかという話がありました。それにつきましては、村さんから車を使わず歩いて逃げさせていただくことを想定しています。一方で、移動困難の方は車を使われることを想定しますので、それについてはどういう対策が必要なのか、工事と併せて関係機関と調整していきますという話をしております。

代表的なのは、そのようなことでした。

○参加者 ありがとうございます。

○司会 ほか、いかがでしょうか。

今はないけれども、また後で思いつくかもしれないなということがあるかもしれませんので、今日お配りしましたパンフレットの一番裏側に、今回の関係の連絡先ということで載せさせていただいていますので、何かお気づきの点がありましたらそちらにお問い合わせをいただければ、答えさせていただくことにしておりますので、ひとつよろしく願いをします。

もし御質問ないようであれば、これで終了させていただければと思います。